

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

1月9日
来館者通算 10万人突破
1ヶ月平均 3226名
1日平均 124名
なお1月末 101,620名

主張

三・一ビキニデー
25周年を迎えて
ビキニ事件の真相の啓蒙を!

ことしは一九五四年三月に太平洋のマーシャル諸島のビキニ環礁でアメリカが強行した水爆実験による被災事件——ビキニ事件がおきてから25年目に当る。25年といえ、四分の一世紀で、決して短い年月ではないが、そのむごたらしい被災の傷跡は今日でも決して消えていない。現に、一九六八年にアメリカ大統領の名で安全性が世界に宣言されたビキニ島が、昨年四月に同じ米政府によって、放射能のため人間の住めない場所となったと判定され、同年八月末までに全島民が近くのキーリ島に強制的に移されるに至った。五四年当時、すでに二八名のアメリカ人、二四四名のマーシャル諸島の住民、第五福竜丸の乗組員二三名の被災などが報告されていたが、数年たつと四七名の島民に甲状腺異状が進行し、

七名がガンと診断され、三五名が甲状腺除去の手術をうけ、何名かの死亡者も出ている。しかも、今日、なお被災の後遺は進みつづけている。ところが、肝心のビキニ事件そのものは、今日、日米両国民にとつてはその印象が次第にうすれ、忘れられるかに見える。その原因には、水爆が当時のアメリカの政府にとつて最高の機密に属し、いっさいの情報が抑えられたこともあるが、同時に、水爆実験が「実験」という

文字に欺され、実は核兵器による核戦争演習であり、それは広島・長崎とはちがう次限の問題を提供していることにわれわれが無関心であったことだ。世界の原水爆禁止運動をリードしている日本の運動の原点が広島、長崎の被爆にあることは明らかだが、ビキニ事件は運動のもうひとつの原点であり、その被災の真相を明らかにすることは、われわれの原水爆禁止の要求に有力な根拠を与えるものであると思う。

いま、ビキニ被災25周年に当たって、ビキニ事件の真相を明らかにすることが、われわれの最大の課題であると信ずる。

ビキニ被災事件25周年記念
対話と映画の夕べ

主催・(財)第五福竜丸平和協会
と き 三月三日(土) 夜五時三〇分
ところ 日本教育会館中ホール(神田一ツ橋)
対話テーマ ビキニ事件とは何か?
対話者 三宅泰雄先生ほか
映画 「第五福竜丸」新藤兼人監督・宇野重吉主演

第13回「知る集い」

——ネバダ実験地の被害をさぐる 赤松宏一氏らを迎えて——

第13回「ビキニ事件と福竜丸を知る集い」は、1月25日夜、有楽町の千代田区役所丸の内分室の区民集会所で、昨年12月に国連訪問の途中、ネバダ(ユタ州)核実験場の近くの土地を訪れて帰国した赤松宏一氏(日本原水協事務局長) 上野義和氏(全司法労組)を招き、ネバダの被災の実情について、いろいろと報告をうけました。

と辻山昭三氏(日本原水協国際部員)から補足報告があり、なお出席された豊崎博光氏(カメラマン)からも最近のビキニ方面の状況の報告があり、参考文書なども回覧されて、活気あふれる対話が行われました。

この集いにはロスアンゼルスタイムズ記者ジュリー・ベルチャーの「アメリカ合衆国は間違いを犯した。ビキニ島はふたたび放射能で駄目(広田重道訳)」が資料として配布されましたが、この資料にはビキニ島民の受難の詳細が書きのせられていて、有益なものです。

残部が多少ありますので、入手希望の向きは夢の島の平和協会宛にお申込み下さい。



協会役員消息

- ◇ 松山義夫副会長 大に入院、手術後の経過よろしく、1月27日に退院、目下自宅静養中。
- ◇ 野村平爾賛助会員 去る1月23日逝去、謹んでご冥福を祈ります。
- ◇ 榎田ふき賛助会員 来る2月17日に満八〇才の祝賀会にご出席の予定。
- ◇ 壬生照順顧問 昨年末から腎臓手術のため東

編集後記

▼ 年末から正月にかけての郵便ストのおかげで、年賀状などで各地に悲喜劇がおこっているようです。この夢の島の協会事務所もご多聞にもれず、一月末にも賀状が舞いこんでいます。

▼ ひどいのは、名宛が正確なのに(いつもは届いているのに)戻ってきているのもあり、その原因に首をひねる始末ですが、二十日ごろに戻ってきたのは、どうにも手の打ちようがありません。

せん。この点で、各方面にご迷惑やらご不快やら与えていると思います。郵政省になり替りまして陳謝いたします。

▼ 一月は暖冬のおかげで、夢の島も大へんにしのぎやすく、暖房を半日で止めるという日も何日かありました。二月に入ると、やきやきしくなりました。読者のみなさま、健康に一段とご留意ください。

▼ 近ごろ嬉しいことは、展示館に書きのこされる感想文の質のとみに向上したことです。(H)

快晴の空に、凧、凧、凧 新春・凧上げ大会

楽しい一日を親子づれで

1月14日の日曜日、晴天に恵まれて恒例の新春凧あげ大会が午前十一時から第五福竜丸展示館の南側のコロシアム用地でひらかれました。

ことしで第七回目とあって、すっかり地元ではおなじみになりましたが、ことしから場所が変ったのと、前日の雪が相当ふかく積っていたので、昨年よりは参加者がダウンして、百名前後でした。

それでも四十名近い人が凧のコンクールに参加し、正午から四名の審査員が慎重に審査した結果、特等以下十六名の入賞者があり、和気あいあいのうちに全日程を終りました。

因に、特等入賞者は左の方でドッサリ賞品を抱えて帰りましたが、一以下全入賞者と参加全員に賞品が贈られました。なお、左記の団体から多数の

商品が寄贈されました。

岩崎書店、新日本出版社、
童心社、小学館、東建従、
独立映画センター、原水協



国際児童年に何を期待するか

ことしは、国連が決定した国際児童年ということで、世界的に、さまざまな行事がひらかれることとなっています。子どもを守ることについては、平和のシンボルであり、戦争から人類を救うためのたたかいのシンボルであると世界の平和を愛好する人びとは、この国際児童年を、心から歓迎しています。

しかし、国際児童年に当って子どもを守ることが、子どもたちに何かを与える。いわゆる福祉ということだけに、むしろ守るはならないと思えます。もちろん、子どもの福祉、その安全、貧困や飢餓から救うことは大切なことですが、現在の人類のおかれている重大な環境からは、それだけでは、本当に子どもを守ることができません。

われわれは、子どもたちを核兵器の恐怖から守ること、とりわけ放射能の恐るべき汚染から守ることが、緊急に必要であると訴えたいのです。子どもたちに核兵器の恐るべき、その使用の非人道性をシッカリと教えなければなりません。とりわけ放射能の恐ろしさ、その汚染から人類を守ることを、どんなに大切であるかを、知らせねばなりません。

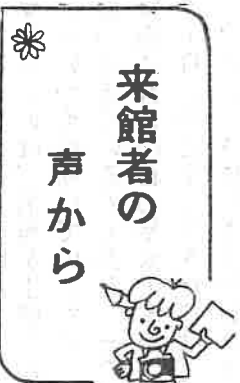
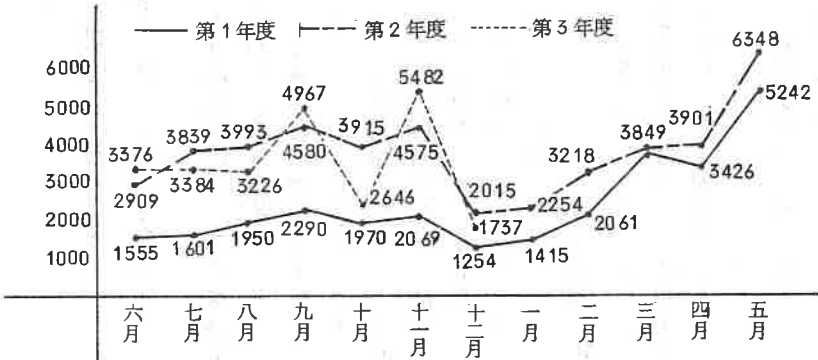
来館者通算10万人突破！ 一月九日に達成された

待望の来館者の通算10万人突破は、去る一月九日に達成され幸運にも十万人目に当った、小林夫妻には、お祝の色紙と記念品が広田専務理事から贈られました。

小林氏は江東区東陽町五丁目に住居される石材屋さんですがお父さんが第五福竜丸保存運動の熱心な協力者だったそうで、偶然とは言え、因縁のふかいものを感じさせました。

この十万人達成については、平和新聞、赤旗その他報道され、展示館がいかに都民に親しまれているかを、改めて、知らす結果となりました。

なお、お祝の電話やお便りをたくさん頂いて居りますが、いちいち返事しておりませんが、ここに紙上を借りてお礼を申のべさせて頂きます。



来館者の 声から

第五福竜丸の事件があった当時、琵琶歌にしてみたことがありました。新聞記事から想像するだけでは、とてもこの事件の悲しさや怒りを表現しきれませんでした。

当時、原爆許すまじという歌があつて、これも琵琶歌に作詞して、府中公会堂で演奏されて一定の成果がありました。戦争の場面がテレビ等で映し出されて、何かカッコいいみたいに考えられるのは大変キケンです。この福竜丸をみたことを機会に戦争のおそろしさを、ほんとに考えてみましょう。

トラック運転手 小沼 仁
第五福竜丸被爆事件を永遠の国際的事件として人類の歴史に

残すことが、日本国民全ての責任であり、義務である。唯一の被爆国は一体、これから何をなすべきか。広島・長崎そしてこの第五福竜丸がそれを暗に物語っている。

また、当時、被爆した船が第五福竜丸のみならず、実に七百隻近くも被爆しているという事実におどろかされた。政府調査なので、あるいはその実数はもっとあるのではなからうか。さらに、久保山愛吉さん以後の被爆された方がたの追跡調査も、政府としてやらねばならないのではないか。

この資料館は過去のもののみ集めないで、これからは、どんな新しい資料を付け加えるべきではありませんか。

港区芝浦 瀬戸
私は今日から始めて第五福竜丸の姿を目で見て、水爆の恐ろしさを感じました。自分の子供が生まれた時には、この水爆の恐ろしさをぜひ見せて、平和な日本を築きあげよう成長を見守りたい。久保山氏の御冥福を祈ります。